下丸子まちづくり座談会　実施概要

１．実施概要

○実施日時

2023 年 12 月 16 日（土）13：00～15：30

○会場

矢口西小学校　体育館

○参加者数

73 名

○プログラム

第一部　地域の担い手とともにまちづくりを考える
第二部　これまでのまちづくりを振り返る
第三部　下丸子のまちづくりを考える

２．実施報告

（１）【第一部】地域の担い手とともにまちづくりを考える

第一部では、地域とともに、世代を超えて、さまざまな人が集う拠点づくりについて、地区内外で活躍する４名のゲストスピーカーより取組紹介を頂き、下丸子のまちづくりにおけるヒント等を共有した。

１）鈴木美央さん（O+Architecture）

・私はマーケットを都市戦略として捉えており、地域と共に生きるあり方に示唆を与えるものだと考えている。
・屋外空間の活動には、必要活動、任意活動、社会活動の３つがあり、ヤンゲールは任意活動や社会活動ができる場が良質な場であると言っている。しかし、現在の公共空間は、地域の人が集う場、対話の場、共に考える場など任意活動や社会活動を行う場が少ない状況にある。
・持続可能な商店街を目指し、定期的なマーケットを開催した事例がある。マーケットの実施により、移動以外に 13 のアクティビティ（任意活動や社会活動等）が生まれ、本来の商店街の魅力である「いろいろなことができる場（地域の人が集ったり、子供たちが遊んでいたり…)」が創出された。
・マーケットの経済付加価値を分析した調査では、マーケットはショッピングセンターに比べ地域に残るお金が６倍多いとの結果が出ており、地域経済の循環に大きな差が生じている。
・取組を継続させるための秘訣は、きちんと黒字を出し続けること。また、無理をしない範囲で進め、自走化していくことが大事である。マーケットは、自分の暮らしを豊かにしたいとの思いから気軽に始められる活動であるが、真摯に向き合い問い続けることが必要だと考えている。

２）アリソン理恵さん（マイアマイア・一級建築士事務所 ara）

・まちは市民が生きる場所であり、市民がまちをケアし共有財産として維持・育成していくものだと考えている。

・私はまちの活性化とは、プロジェクトが動き続けている状態であると捉えている。まちの活力をイベントの参加人数で計ろうとすると、そればかりに囚われてしまい地元の人の気持ちがどんどん疲弊していってしまう。

・ソーシャルイノベーションのきっかけは地域での他者との出会いといわれており、出会いや顔見知りになる場を増やしていくことで、まちの風景は豊かになると考えている。

・マイアマイアでは、上記を踏まえ強制的にコミュニケーションを取らざるを得ない状況を作り出す工夫をしている。例えば、スタンプカードの景品としてワインボトルをプレゼントするなど、１人では消費できない状況を作り出し、その他のお客さんとのコミュニケーションを促している。また、お店の外には畑を作り、日常的にコミュニケーションが生まれる工夫をしている。

・今の生活は、全てサービスで賄われており、自分たちでまちをケアし、まちを維持・育成していくことを忘れてきている。小さなケアの積み重ねがまちのコミュニケーションを生み、それぞれの「やりたい」を実現できる環境や雰囲気ができ、そのプロジェクトに取り組む。そのような好循環が生まれることにより、自分たちの場である認識（愛着）が高まっていくことにつながっていくと考えている。まちの日常風景を整えていくことで、まちに人がいる好循環が生まれていくと考え取り組んでいる。

３）小野裕之さん（散歩社）

・ボーナストラックでは、求心力だけでなく遠心力（まちに飛び出す力）も大事にしており、ボーナストラックをきっかけにまちに商いを展開できるよう不動産事業者と協力しながら進めている。実際に、出店者が現在の店舗では手狭になり、まちなかへ波及していった事例も出てきている。

・私は公共空間や公共施設を使いこなし、チャレンジややりたいを実現できるコモンの場としていくことに取り組んでおり、そのような場が暮らし、まちを豊かにすると考えている。

４）金井絵美さん（hatome）

・hatome は、住宅をリノベーションしてカフェやギャラリーの場として、１つの店舗ではなく、複数の方で作り上げる複合施設として作り上げたお店である。既存のものを活かしつつ、地元に愛着を持ってもらえるような場づくりを行っている。

・カフェは「機能」であり、カフェというプラットフォームを HUB として、関係人口を増やしていくことで、その場の価値に厚みが生まれ、地域住民にとって豊かな場所となっていくことを狙いとしている。

・また、ギャラリーでは小さなスペースから安価に出店できるようにしており、地域のお母さんたちが持っている趣味を商売に展開できる場として活用されるなど、ビジネスのきっかけづくりを支援している。

（２）【第二部】これまでのまちづくりを振り返る

第二部では、大田区林課長及びおおたクリエイティブタウンセンターの野原センター長より、これまでの下丸子のまちづくりの取組状況を共有した。

1）林課長（大田区鉄道都市づくり課）

下丸子駅周辺地区の位置づけ、ならびに下丸子駅周辺まちづくり構想について説明。

・まちづくり構想の本編は web 上でご覧いただける。また、今後「下丸子駅周辺地区グランドデザイン」を策定する。検討にあたり委員も公募で募集しているので、ぜひ応募いただきたい。

2）野原卓さん（おおたクリエイティブタウンセンター）

おおたクリエイティブタウンセンターの取り組みについて説明。

・伊豆長岡温泉では、フリーマーケットを継続的に行うことで、観光客だけでなく市民も積極的に活動に参加できる土壌ができつつある。

・大田区の町工場は騒音等の問題もあり、扉を閉めて営業している工場が多いが、おおたオープンファクトリーの取り組みでは、町工場が公開され一般に見学できる。ガチャポンや職人カードなど様々な仕掛けによってモノづくりの価値を見出す取り組みも行っている。

・くりらぼ多摩川では、「くりらぼメイト」というものづくりに関する日替わりのイベントや、「SCRAP」というアップサイクルプロジェクトを実施している。

・大田区には住宅街、商店街、工場、空港があり、他のまちと比べても様々な要素が揃っている。ものづくりに限らず、大田区には潜在的な価値が多数あるので、その価値を見出す活動が自発的かつ同時多発的に発生すると、より魅力的なまちになると考える。

（3）【第三部】下丸子のまちづくりを考える

第三部では、「下丸子のまちづくりを考える」をテーマに、5 人のゲストを交えたクロストークを行った。

■クロストークの内容

・（鈴木）まちに関わってもらう観点では「楽しい」ということが大事な要素。地域に関わることで自分たちの生活が犠牲になってしまっては関わりたくなくなってしまう。その解決策として、無理をしないこと。ある調査では市民の 7 割はまちに関わりたいと思っているようだが、実際に関わっている人は 5 %程度となっている。

・（アリソン）まちにはすでにコミュニティがあるが、世代が分かれており交わることは普段はない。しかし、世代間を超えて集まる場をつくることによって、新たな発見や課題の解決につながるケースが見受けられる。また、私も鈴木さんと同様、プロジェクトに関しては無理をしないようなルール設定を行い、関わりやすい環境を作り出すことを心掛けている。

・（アリソン）私は東長崎を職場としているが、普通の商店街があることは観光の資源でもあり、そのような場が存在していることは大きな魅力である。

・（野原）様々な人の取組が重なり合うことでまちが出来上がっていくのだと思う。手に職を持っている人は多くいて、その方々は表現する場を求めていた。１つのきっかけが波及的に広がり、結果的に豊かなまち・場をつくっていくことにつながっていくのだと考えている。

・（金井）ハンドメイドをやっている人は、hatome のようなチャンスの場を求めていたのだと思う。下丸子での成功体験が地元に対する貢献にもつながっていると考えており、口コミも下丸子を知ってもらうきっかけになっている。

・（小野）気軽に始められる場ができることによって、地元への波及効果はあると考えている。そのよ

うな場は複数の店舗を集積させることによって、面白い場として認知され、集客力の向上にもつながる。

・（金井）下丸子には個人店が多い特徴があるが、個人店は情報発信が不慣れであり、情報が行き届いていないことが課題である。

・（野原）下丸子には素敵なお店はたくさんある。同じところに居続けてもらうことにはこだわらなくてよいと考えている。もし離れたとしてもまちと心がつながっていることで戻ってきたり、まちの取組に関わってくれたりなど、大事な要素ではないかと考えている。

３．ご観覧者から頂いたご意見(一部抜粋)

■面白かったプログラムの感想

✓ ゲストの方々が経験の中で培ってきたまちづくりへの思いは、とても興味深かった。

✓ 他地域での事例紹介が参考になった。

✓ どれが、と言うより色々な角度で下丸子の発展を考えている方が沢山いらっしゃる事をとても嬉しく思いました。自分はシニアですが、何かお手伝い出来る事があれば、と思ったりもしました。ハトメの存在も初めて知りました。

■プログラム全体への感想

✓ まちの主役はまちの一人ひとり。役割や出番がある、やってみたいをやってみることのできる場がある。こういうところの発想を持っている人、実践が大切だと思いました。聞く一方で、アフタートーク（感想シェア会場）とかあるとよかったです。

✓ 下丸子の将来に興味があるので参加しましたが、座談会のゴールがよくわからないまま参加し、よくわからないまま話を聞きました。下丸子地区のことを考えるヒントを得ることがゴールだったとすると、下丸子と全く関係ない事業内容説明の話が長かったのが残念です。すでに下丸子で頑張って商売をしている人を、ファンとしてどう応援できるか、いくつかアイデアをもらえたので、参加して良かったです。

■これからの下丸子へ期待すること

✓ わざわざ来たくなる街。バランスがよく住みやすい街。エリア全体が風通しの良いコミュニティを形成し、エネルギーにあふれている街。商店街が活性化している街。

✓ 価値観が多様化して混迷のなか、地域に豊かな暮らしの循環が産まれるエリアの出現、活動の場を期待。

■フリーコメント

✓ 「近隣で他者と関われる機会を増やす」との言葉が心に残りました。まちづくりに重要な観点、ヒントになると思いました。

✓ 周りに知られていない。もっとたくさんの人に関心を持ってもらえるよう頑張ってほしい。

４．当日の様子

以上